

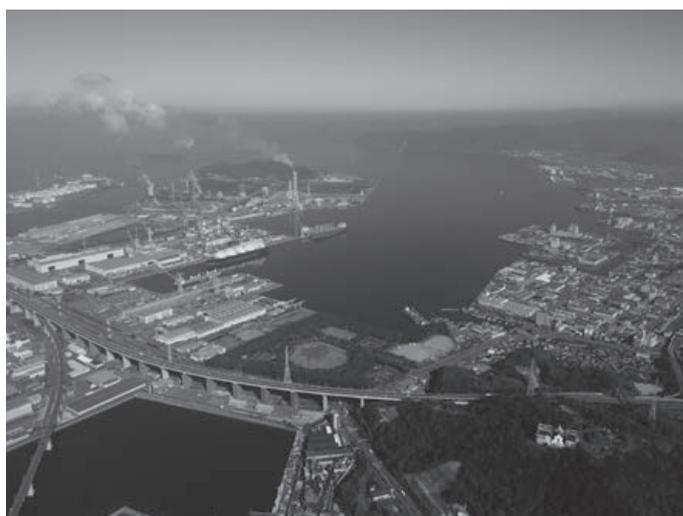
坂出港

坂出市建設経済部みなと課

〒762-8601 坂出市室町2-3-5

☎0877-44-5010

URL : <http://www.city.sakaide.lg.jp>



1. 概況

坂出港は、香川県の中央部に位置し、阪神・関門の中間港として、また、瀬戸内海における海上交通の要衝として、重要な役割を占めている。昭和40年4月に県営工事として着工した番の州の埋立地は、昭和42年に川崎重工業(株)造船工場(現・川崎重工業(株)坂出造船工場)が操業を開始し、つづいて三菱化成工業(現・三菱ケミカル(株))、四国電力(株)、アジア共石(株)(現・コスモ石油(株))、吉田工業(株)(現・YKK AP(株))、オレオケミカル(株)(現・ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所)など大型の近代企業群が相次いで立地操業を開始し、香川県工業開発の中核となり、本港の取扱い貨物量の飛躍的増大をもたらした。

坂出港の生成と発展過程は、塩田の築造と深いかわりをもっている。すなわち、約195年前(文政7年～12年)塩田の築造によって、石炭の荷揚げ、塩の積出しなどの港が必要となり天保2年(西暦1831年)帆船錨地として、塩田地先に船だまり(現在の沖湛甫)を築造した。その面積約26,000㎡で水深、防風の設備が良く、当時全国の良港24港の一つに数えられた。

製塩地としては後進地域であったが、明治時代に入り塩田の築造が盛んとなり、他の産地を圧倒して全国屈指の製塩地となった。製塩業の隆盛により産塩輸送の増大とともに、後背地の麦を加工した精麦・製粉などの移出も盛んとなり、遠く京浜・北海道方面との取引も頻繁となり物資の集散地となった。このように物資の集散が盛んとなるにつれ、港湾築造の要望が高まり明治33年と大正2年に、大阪市の港湾顧問に調査を依頼し、その意見書を参考にして、大正5年より大正11年にかけて、内陸運河とこの運河に至る水路の浚渫を行った。しかし、なお汽船のためには築港が必要となり、昭和2年から昭和7年まで町営事業として西岸壁、防波堤、東西埋立地(約31ha)を築造した。西岸壁の背後には倉庫も建設され、商圏も朝鮮・台湾・北海道・樺太までに達し、近代的な商港としての発展の契機となった。

昭和12年から中央突堤の建設工事を県営事業として着手したが、第2次世界大戦のため工事中断し、昭和38年2月ようやく完成した。この間、昭和21年12月、南海大地震があり、西岸壁が崩壊し坂出港の機能は停止の状況になったが、戦後の資材不足を克服し、国から特別の財政援助も得て矢板岸壁により約3カ年で復旧させた。中央突堤は東側に水深10m岸壁1バース、西側に水深8m岸壁1バース、北側に水深6m岸壁1バースを有し、背後地には倉庫・サイロが建設

され、現在商港機能の中核施設となっている。

昭和23年1月には開港の指定を受け、同年7月には港則法による港域が設定された。その後昭和26年9月には重要港湾に格付けられ、昭和28年7月には坂出市が港湾管理者として認可され、税関・海上保安署・検疫所・植物防疫所・入国管理事務所(現・出入国在留管理局)などの行政機関も設置された。

坂出港築造の基盤となった塩業は、昭和46年末には塩業近代化の措置により、塩田による製塩は全面的に廃止された。それに伴い、塩田跡地は再開発が逐次行われ、坂出港の東部に位置する林田塩田・阿河浜塩田の跡地は、その地先海面とともに埋立工事を施工し、昭和57年3月には林田塩田前面に水深12m岸壁、平成3年3月には阿河浜塩田前面に水深7.5m岸壁が完成した。

また「世紀の大事業」といわれる瀬戸大橋が昭和63年4月に開通し、坂出港は四国側の最初のインターチェンジである坂出北インターチェンジと直結した。また、四国横断・縦断自動車道の整備が図られるなど、基幹的な高速交通ネットワークが形成されており、坂出港は四国の玄関港として、また海陸の交通軸の結節点として重要な役割を担っている。

さらに、平成26年4月には、西ふ頭地区に水深7.5m岸壁2バース(うち1バースは耐震岸壁)が供用開始され、大規模地震時の緊急輸送拠点としての役割も担っている。

〈地勢〉

坂出市域は、香川県の中央部に位置し、数個の離島を包含して備讃瀬戸に臨み、背後市域は、東は五色台、西は聖通寺、南は城山により囲まれ、平坦部は市街地、農用地として利用されており、その前面には製塩地として栄えた塩田の跡地と臨海工業地があり、特に市北西部の海岸の浅瀬であった番の州を埋立てることによって、瀬居島、沙弥島を陸続きとし、そこに広大な臨海工業地を造成し、企業が立地している。

〈地質〉

坂出港背後の起伏山地は讃岐岩類、花崗閃緑岩などの熔岩質であり、その間を流れる綾川の扇状地として形成された平坦部は沖積層で占められ、砂と粘土質の地質である。

〈気象〉

坂出市は、年間を通じて気温較差が少なく平均17.2度(平成26年から30年)である。また、降水量も年間平均1,179mm(平成26年から30年)と少なく、典型的な瀬戸内海の多照寡雨型気象である。

風は、年間を通じ穏やかな日が多く、平均風速1.8m/sec(平成26年から30年)と、毎年一定している。